

広島県で新たに見つかった 帰化植物

青山 幹 男

広島県内で確認された帰化植物は太刀掛優(1982)により236種が報告されている。この中にはヒマワリやアサガオなどの栽培植物が免出したものや、ナガミヒナゲシやホシアサガオのように過去1回だけの採集記録しかないものも網羅されており、県内の帰化植物に関するほぼ完全な記録である。その後、新しい帰化植物としてはハルザキヤマガラシ(金沢成三1984)が報告されている。

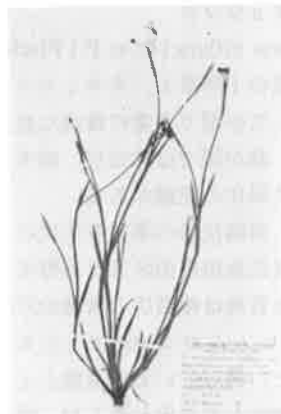
筆者は展示用、資料用を目的として園内外において帰化植物を収集する過程で広島県内で新たに帰化植物10種を確認した。この中には一時帰化的な種類も含んでいるが、生育地の状況等の観察を含めここに報告する。これらの帰化植物は、腊葉標本にして本園標本室に保存している。

オオニワゼキショウ アヤメ科
Sisyrinchium iridifolium Humb. Bonpl. et
Kunth. var. *laxum* F. Maekawa

北米原産の多年草で、我が国に広く帰化しているニワゼキショウに似る。ニワゼキショウに比べ、草丈が大きく35cmに達し、果実も約2倍の大きさになる。花径はやや小さく、花色は淡青色で、ニワゼキショウの白色または紅紫色とは異なる。

本種は、1981年5月25日当園の系統進化園に植栽しているニワゼキショウに混生しているのが見つかった。長田武正(1976)は本種とニワゼキショウが別種か否かは不明であると述べているが、園内におけるその後の観察では、両種は混生しているにもかかわらず中間的な形態を示す個体が見られず、前述の特徴により明らかに識別できる。

本種の同定には長崎女子短期大学中西弘樹博士をわずらわした。ここに厚くお礼申し上げる。



オオニワゼキショウ

シマニシキソウ トウダイグサ科
Euphorbia hirta L.

熱帯アメリカ原産と考えられている1年草で、世界の熱帯～亜熱帯に広く分布している。ニシキソウに比べ、大型で茎は立ち上がる。植物体は多毛で、葉腋につく花序も比較的大きな塊となり、よく目につく。我が国では近畿以南の暖地に広く帰化している。

本種は、1983年8月11日園内の樹木苗を仮植していた跡地に2株が生育しているのが見つかった。園外より持ち込んだ樹木苗とともに種子が移動してきたものと思われるが、翌年以降の発生は確認していない。

モンツキウマゴヤシ マメ科
Medicago arabica (L.) Huds.

地中海沿岸原産の1～2年草で、ウマゴヤシに似るが3小葉の中心に赤黒色の大きな斑紋があるので容易に区別できる。我が国では近畿、中国、四国で散発的に帰化の記録がある。

本種は、1982年4月12日広島市安佐南区安古市町において生育していた。生育地は畑地の中を通る農道のそばで、約5mの長さにわたってシロツメクサなどと混生していた。その後2年間、同所において生育を確認しているが、著しい個体数の増減は見られず狭い地域で安定した群落を維持している。

ヒナキキョウソウ

キキョウ科

Specularia biflora (R. et P.) Fisch. et Mey.

北米原産の1年草で、キキョウソウに比べて全体が細くて小型で非常に貧弱な感じがする草姿である。我が国では神奈川、熊本、愛媛などで散発的に帰化の記録がある。

本種は、当園技師の須田泰夫氏により、1982年6月2日広島市佐伯区五日市町において発見された。生育地は種苗店の敷地の片隅で、オニノゲシ、ヒメムカシヨモギとともに3株が生育していた。扱っている種苗類とともに種子が移動してきたものと思われるが、同所ではその後は発生していない。



オオツメクサ

オオツメクサ

ナデシコ科

Spergula arvensis L.

欧州原産の1~2年草で、ツメクサに比べて非常に大きい。やや多肉質で線形の葉が各節に10~20枚偽輪生し、一見水草のマツモのようである。古くから帰化の記録があるが、今日では北日本の牧草地などでやや稀に発生する。

本種は、1983年12月19日広島市安佐北区安佐町の花木仮植場の樹木苗の間に広い範囲で多数発生していた。同所では寒さに耐え、花をつけている株も見られた。

ツノミオランダフウロ

フウロソウ科

Erodium botrys (Cav.) Bertol.

欧州原産の1~2年草で、オランダフウロに似るが、茎が太く、より大型になる。小さな淡

紫色の花をつけ、果実の先端はくちばし状に著しく伸長し約10cmの長さになる。我が国では本州中部の太平洋沿岸部に稀に帰化している。

本種は、1985年5月18日広島市安佐南区沼田町の自動車道の法面に3株発生していた。法面保護のイネ科の緑化植物に混じって種子が散布されたものと思われる。

ミツバオランダフウロ

フウロソウ科

Erodium crinitum Carolin

オーストラリア原産と考えられている1年草。葉は3深裂するか、3出複葉になり、頂片は側片より大きく、普通、さらに羽状に裂ける。我が国への帰化の記録は少なく、稀に一時帰化した株が発見される。

本種は、1985年5月18日、前述のツノミオランダフウロと同じ場所で1株発生しているのを発見し、標本を作成した。同所では開花中のジャコウアオイ1株も確認しており、これらの帰化植物はいずれも緑化用種子に混入していたものと考えられる。



ミツバオランダフウロ

ハタケニラ

ユリ科

Nothoscordum fragrans Kunth

北米原産の球根性多年草で、ニラに似た草姿であるが、ニラ臭がないことで区別できる。本種は明治中期にすでに渡来しているが、帰化植物としての分布記録は少ない。

本種は、1985年6月27日、当園のボタン園の

縁石沿いに3ヶ所10数株が発生しているのを確認した。当初はニラと思い見過していたが、全体がやや大きく、葉も長いので地下部を掘り上げたところ、多数の子球をつけていたので本種であることが判明した。子球は容易にはずれるため、駆除が困難な害草として広がる可能性がある。

エノキアオイ

アオイ科

Malvastrum coromandelianum (L.) Garcke

熱帯アメリカ原産の多年草で、茎は直立し30~80cmになる。葉はエノキグサに似るが、より大型で、葉腋に淡黄色の花を数個つける。我が国への帰化の記録は少なく、暖地沿岸部の数ヶ所で報告されている。

本種は、1985年9月23日、広島市佐伯区五日市町に発生した株を同町在住の矢頭春男氏が採集した。発生場所は住宅地の中にある菜園の中で、約20株が生育していた。同所ではイチビとともに数年前から本種が生育していたそうで、耕作している人も変わった植物があると思い除草せずに残っていたそうである。

貴重な資料と情報を提供していただいた矢頭春男氏に厚くお礼申し上げます。

マンテマ属の一種

ナデシコ科

Silene sp.



マンテマ属の一種

マンテマ属は北半球およびアフリカに広く分布しているが、特に欧州の地中海沿岸地域に多くの種を産する。耐寒性の多年草または1年草で、我が国にも鑑賞用として多くの種が導入されている。マンテマ、ムシトリナデシコは古くから知られている帰化植物であるが、近年はシラタマソウ、マツヨイセンノウ、ツキミセンノウなど本属の植物が帰化状態で見つかる例が多くなっている。

本属は欧州地域だけで160種を産し、またセンノウ属、フシグロ属との混乱も見られ、種の同定が困難な植物である。

本種は、1985年5月15日広島県佐伯郡吉和町の県立もみの木森林公園近くの県道脇に、大小約20株が開花していた。本種は帰化植物図鑑(長田1972, 1976)には該当する記載がなく、最新園芸大辞典に掲載されているサクラマンテマ(*Silene pendula* L.)におよそ一致する形態を示していた。同書によるとサクラマンテマは明治中期に渡来し、花壇用1年草として利用されている。

本種はサクラマンテマの逸出帰化と考えられるが、前述のように同定困難なためここではマンテマ属の1種として扱った。

〈参考文献〉

- 井上頼教他編 1970. 最新園芸大辞典. 誠文堂新光社.
- 長田武正 1972. 日本帰化植物図鑑. 北隆館.
—— 1976. 原色日本帰化植物図鑑. 保育社.
- 金沢成三 1984. 双三郡三良坂町灰塚でハルザキヤマガラシを採集. 比婆科学 127 : 34-35.
- 太刀掛優 1982. 広島県の帰化植物. 『広島県の生物』 pp. 113-126